

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 県へ農業農村整備の着実な推進を要請…………… 2
- 東北農政局へ予算の確保を強く要請…………… 2
- 県と合同で農林水産省へ要請活動を行う…………… 3
- 岩手県農業農村整備推進議員クラブ
現地研修会を開催…………… 3
- 全国水士里ネット会長会議顧問が現地視察を実施…………… 4
- 令和2年度岩手県農村防災・災害対応
支援連絡会を開催…………… 5
- ため池措置法公布に伴う説明会を開催…………… 5
- 豊沢川土地改良区が創立70周年記念式典を開催…………… 6
- 複式簿記会計ソフト「ミラウドmini」の紹介…………… 6
- 非補助農業基盤整備資金のご案内…………… 6
- 農地・農業用施設が持つ多面的機能を
小学生が学ぶ…………… 7
- 水源涵養林の役割と整備する大切さを学ぶ…………… 7
- 自動草刈機実演会を開催…………… 8
- 水士里ネットいわて新規採用職員の紹介…………… 8

2020(11月) No.584

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人／千葉 匡 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

「収穫タイム」

令和元年度「農村景観」写真コンクール 風景部門 優秀賞



県へ農業農村整備の着実な推進を要請 — 農業農村整備事業の安定的かつ計画的な実施に向けて —

6月8日、小田島峰雄 会長と 大宮惇幸 副会長、小野寺道雄 副会長が、岩手県農林水産部 佐藤隆浩 部長、伊藤啓治 技監、大畑光宏 副部長、工藤直樹 参事兼農村計画課総括課長に対し、「農業農村整備の着実な推進に関する要請」として、「令和3年度当初予算の確保」等について要請した。

要請に対し、佐藤部長からは、「本県の水田整備率は、東北の中で最も低いという由々しき状況であり、基盤整備をしっかりと進めていくため、農業農村整備事業関係当初予算の確保が必要。また、本県の防災重点ため池は898カ所となっており、計画的に防災対策等を進めるため、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が終了する令和3年度以降も、安定的な予算の確保が必要である。

県では、基盤整備や農村地域の国土強靱化に要する予算の十分な確保と配分を国に対して

要望しており、引き続き、貴連合会と連携を図りながら、予算確保に向けた取組を進めていく。地域から寄せられている多くの声にしっかりと応えるため、必要な予算の確保に向けた検討を進めていく」とコメントされた。



【佐藤農林水産部長（左から4人目）に要請書を手渡す小田島本会会長（左から3人目）】

東北農政局へ予算の確保を強く要請 — 令和3年度当初、令和2年度補正予算 —

7月28日、小田島峰雄 会長と大宮惇幸 副会長、小野寺道雄 副会長が、東北農政局 川合靖洋 局長、小林博行 局次長、原川忠典 農村振興部長に対し、「農業農村整備の着実な推進に関する要請」として「令和3年度当初予算及び令和2年度補正予算の確保」について要請した。

要請に対し、川合局長からは、「新型コロナウイルスの影響で、令和3年度概算要求が9月末となっており、例年より1ヵ月短い期間で財

務省と予算折衝を行わなくてはならない。特に、新型コロナウイルス対策で大規模な財政支出を行っているため、大変厳しい予算折衝となることが見込まれる。このような状況の中で十分な予算を確保するためには、地域の声を東京に届けて頂くことが大変重要となる。新型コロナウイルスの状況を見て、上京できる機会があれば地域の声を直接東京に届けて頂き、予算確保に向けた後押しをお願いしたい」とコメントされた。



【東北農政局長、局次長、農村振興部長との意見交換の様子】



【川合農政局長（右から3人目）に要請書を手渡す小田島本会会長（左から4人目）】

県と合同で農林水産省へ要請活動を行う

ー 強い農業のための基盤づくりや農村地域における国土強靱化の実現に向けてー

9月25日、小田島峰雄 会長が、県の佐藤隆浩 農林水産部長、伊藤啓治 技監とともに、農林水産省に対し、令和3年度当初予算及び令和2年度補正予算の確保等に向けた「農業農村整備の着実な推進に関する要請」を行った。

池田道孝 農林水産大臣政務官に面会し、要請を行い、「要請内容について、しっかりと予算要求をさせていただく。防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策を終える令和3年度以降の対策についても、必要な予算が確保できるよう、要求を行っていく」とのコメントをいただいた。続いて、牧元幸司 農村振興局長等と面会し要請を行い、「来年度の当初予算について、前年度比22%増の要求をすることとしている。防災・減災、国土強靱化に要する予算については、予算編成過程で検討することとしており、現場からの要望に応えるために、必

要な予算をしっかりと確保できるよう頑張っていきたい」とコメントを頂いた。



【池田大臣政務官（中央）に要請書を手渡す佐藤農林水産部長（左から2人目）と小田島会長（右から2人目）、伊藤技監（左）、千葉専務理事（右）】

岩手県農業農村整備推進議員クラブ現地研修会を開催

ー 本県農業農村整備事業の実施状況と効果を調査ー

岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ（高橋元 会長、会員数48名）は、8月20日に現地研修会を開催した。当日は、会員29名が参加し、一関市のほ場整備事業実施地区におけるスマート農業の導入状況や、環境に配慮した事業の取組み等について視察し、地元農業法人代表者と農業収益力向上に向けた取組等について意見交換を行った。

最初の研修場所である県営ほ場整備事業一関第1地区では、GNSS基地局を利用した自動操舵トラクターやGPSレベラーによる整地作業の効果について、照井土地改良区の遠藤圭二郎 工務課長などから説明を受けた。その後の意見交換においては、高橋会長が「本日は一関市地元農家さんと課題や要望などの意見を交換し、農家の声を県政に反映していきたい」と挨拶した後、アグリパーク舞川の渡邊克洋 代表理事から、スマート農業機械を導入した経緯と効果について説明を頂いた。続いて、遠藤清行 一関研農同志会団長が、一関遊水地での今後のスマート農業の展開方向について、構想を語っ

た。午後に訪れた現地研修場所である県営ほ場整備事業門崎地区では、藤江修 農事組合法人門崎ファーム代表理事組合長から、環境保全型農業の取組について説明を頂いた。

会員の方々は、スマート農業の実態と効果や、環境に配慮しつつ作物のブランド化を図った事例を研修し、農業農村整備事業の必要性について再認識していた。



【自動操舵トラクタの実演】

全国水土里ネット会長会議顧問が来県し現地視察を実施

－ 宮崎まさお氏(7/3)、進藤金日子氏(7/17)が来県 －

○宮崎まさお氏

7月3日、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎まさお氏（参議院議員）が岩手県を訪問した。

はじめに、国営事業で改修等が進められている「岩洞ダムからの導水路（滝沢市）」や「鹿妻穴堰頭首工（盛岡市）」、「煙山ダム（矢巾町）」の現地視察を行った。

その後、味噌づくり等の6次産業化に取り組む「3ちゃん矢次工房（矢巾町）」や「矢次地区基盤整備事業推進協議会（矢巾町）」等の地域住民や盛岡地区土地改良区理事長協議会役員との意見交換を行った。



【農家と意見交換する宮崎氏（写真左）】

○進藤金日子氏

7月17日には、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子氏（参議院議員）が岩手県を訪問した。

はじめに、花巻市で、花巻地区土地改良区の役員との意見交換が行われ、その後、猿ヶ石北部土地改良区が運用している水管理システムと農地中間管理機構関連農地整備事業を実施している平良木地区の現地視察を行った。

また、一関市に移動し、一関地方土地改良区協議会の各土地改良区理事長と意見交換した後に、一関遊水地の大区画ほ場で展開されているスマート農業の取組み等について、現地の農業者と意見を交わした。



【一関遊水地を前に農家と意見交換する進藤氏（写真中央）】



【鹿妻穴堰頭首工を視察する宮崎氏（写真中央）】



【導水路改修工事を視察する宮崎氏（写真中央）】



【花巻地区土地改良区役員と意見交換する進藤氏（写真中央）】



【一関地方土地改良区協議会で意見交換する進藤氏（写真中央）】

令和2年度岩手県農村防災・災害対応支援連絡会を開催

－ 災害発生時の迅速かつ円滑な支援のために －

6月18日、本会会議室において、令和2年度岩手県農村防災・災害対応支援連絡会（会長：千葉和彦 県農林水産部農村建設課総括課長）が開催された。

本連絡会は、市町村等が行う農業用施設の防災・減災に向けた維持管理活動や迅速かつ確かな災害復旧事業等を効果的に支援することを目的に、岩手県、岩手県土地改良設計協会、岩手土地連の3者で構成された組織。

会議に先立ち、岩手県土地改良設計協会藤原繁 会長から、連絡会会長である千葉農村建設課総括課長に対し、災害発生時の迅速かつ円滑な災害対応に必要な「災害発生時における農地・農業用施設の復旧支援に関する協定」が県内全市町村と締結されるよう促進を図ること、また、災害復旧業務において新型コロナウイルス感染者が発生した場合に備え、水土里情報システム等を活用し設計図書の簡素化を図ることや、査定は必要最小限の人員、短時間で実施すること、の2項目について要望した。

この要望に対し千葉農村建設課総括課長は、「協定の締結は、速やかな復旧に向けて有効な手段である。これまで33市町村のうち24市町村と締結された。今後も、市町村との会議等の際に、有効性を再度説明し、協定締結の促進を図りたい。また、新型コロナウイルス感染症

への対応については、財務省などで協議が進められている。国と情報共有しながら、対応を検討していく」とコメントした。

その後、令和元年度の活動報告として、災害復旧事業におけるドローンの活用検証結果などについて報告され、令和2年度は、過去2年間のみとめとして「ドローンの利活用事例（案）」（仮名）の作成を考えているとの説明があった。

出席者からは、「迅速性が求められる災害対応についてドローンの活用が期待される」、「被災前の農地等をあらかじめドローンで撮影することも必要ではないか」などの意見が出され、今後も積極的に情報共有していくことを確認して散会した。



【左から設計協会土門副会長、設計協会藤原会長、県農村建設課千葉総括課長、土地連千葉専務理事】

ため池措置法公布に伴う説明会を開催

－ 防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進に関する特別措置法の説明会 －

9月18日、本会会議室において、防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進に関する特別措置法の説明会（主催：県農村建設課）が開催された。

この説明会は、同法が6月19日に公布されたことに伴うもので県現地機関、農業用ため池（防災重点ため池）を有する市町村及び本会から33名が出席した。

説明は、東北農政局が行い、農村振興部防災課畠山秀幸 ため池管理保全係長から同法の概要及び防災重点等推進計画の策定等について説明された。

この法律は、都道府県が、ため池の防災工事

や地震・豪雨への耐性調査や工事の計画を策定し、工事を進めるもので、国は事業の費用を支援する。又、防災工事を集中的に進めるため、2030年度末までの時限立法とされた。

なお、本法律は10月1日から施行されている。



【説明会の様子】

豊沢川土地改良区が創立70周年記念式典を開催

－ 水は今日も流れて来てますか －

豊沢川土地改良区（久保田泰輝 理事長）創立70周年記念式典が9月4日、花巻市のホテル紅葉館において、達増拓也 岩手県知事（代理：佐藤隆浩 農林水産部長）や農林水産省東北農政局、関係市長、地元県議会・市議会議員など関係者約150名の出席のもと盛大に開催された。

式典では、久保田理事長が「当土地改良区は、昭和25年12月27日岩手県の認可第1号稗和西部土地改良区としてスタートし、その後の名称変更や合併を経て創立70周年の節目を迎えることができた。「水は今日も流れて来てますか」の平賀千代吉 初代理事長のこの言葉を胸に、創立の原点に立ち返り、この地域の尊い財産を大切に、時代とともに変遷する農業や農村を取り巻く社会をしっかりと見定め、新たな農業の振興とともに地域の振興に向けて、土地改良区としての役割を果たすべく、役

職員一丸となって全力を尽くしていくことを誓う」と式辞を述べた。

式辞の後には、市民植樹祭参加学童クラブ、アドプト協定締結団体・会社、農業用水利施設災害対策業務協定締結会社への感謝状の贈呈が行われた。



【式辞を述べる久保田理事長】

複式簿記会計ソフト「ミラウド mini」の紹介

－ 貸借対照表等の作成に向けて －

土地改良区の貸借対照表作成が、令和4事業年度から義務化されましたが、国では小規模土地改良区を対象にした簡易で安価な会計ソフトを開発し、そのソフト「ミラウドmini」が、今年3月から販売されています。

貸借対照表などの財務諸表等を作成することができるこのソフトは、必要最小限の機能を有しており、機能制限はあるものの安価な会計ソフトであり、複式簿記会計への円滑な移行への選択肢の一つとして検討していただきますようお願いいたします。

本会では同ソフトを購入しており、操作体

験等を希望する場合は管理指導課までご連絡下さい。

なお、機能制限の内容は以下のとおりです。

- ・単式簿記会計
- ・賦課徴収システム等のシステム拡張等
- ・消費税の計算や消費税申告書の作成
- ・発電会計
- ・メーカーサポート（電話及びメール）は、本会計システムの操作サポートに限定
- ・複数人での利用

※ミラウドminiパンフレットから引用

非補助農業基盤整備資金のご案内

－ 長期・低利の融資を活用しませんか －

- ✕ 日本政策金融公庫の非補助農業基盤整備資金は、国の補助を受けない非補助土地改良事業の地元負担金や農業集落排水事業で設置した公共枡から各家庭までの配管敷設等の工事に利用できます。
- ✕ 詳しい内容については、日本政策金融公庫盛岡支店農林水産事業、岩手県農林水産部農村計画課または本会管理指導課までお問い合わせください。

農地・農業用施設が持つ多面的機能を小学生が学ぶ

— 猿ヶ石北部土地改良区が令和2年度施設見学会を実施 —

猿ヶ石北部土地改良区（小田島峰雄 理事長）は8月27日、令和2年度施設見学会を開催した。

この見学会は、国営造成施設管理体制整備促進事業の推進活動として、地域の子供達に農業用施設の役割について学んでもらうことを目的に開催されたもので、花巻市立東和小学校4年生の児童64名が参加した。

開会にあたり小田島理事長が、「田瀬ダムの水が、田んぼや畑に届き、お米や野菜が作られています。ダムや水路、田んぼがどのような役割を持っているか勉強して欲しい」と挨拶した。

児童らは、バスに分乗し「田瀬ダム」「中央幹線除塵機」「町井地区ほ場整備パイプライン」の施設を移動しながら見学した。

田瀬ダムでは、1つのゲートから1秒間に1トン以上取水できることや、稲の生育には温かい水が必要なことから水面に近い場所から取水することなどが説明された。その後、児童は取水ゲートの開閉スイッチを入れて開閉状況を見学した。

また、中央幹線除塵機では、実際に機械を稼働させて水路を流れる草木やゴミが取り除かれる様子を間近で見学した。

最後に町井地区のほ場では、稲作にはきれいな大量の水が必要であることや、田んぼには洪水を防止する機能もあることなどが説明された。

児童たちは、説明を受けた後、職員に「除塵機を通り抜けたゴミはどうなるの」「空き缶は年間どの位捨てられているの」等と積極的に質問していた。



【除塵機を見学する児童】

水源涵養林の役割と整備する大切さを学ぶ

— 鹿妻穴堰土地改良区が枝打体験学習会を開催 —

鹿妻穴堰土地改良区（高橋隆 理事長）主催による枝打体験学習会が9月24日、同改良区が保有する雫石町内の水源涵養林内において開催された。

この学習会は、水源涵養の大切さや森林整備の必要性について学ぶことを目的とし、矢巾町立徳田小学校4年生の児童ら約20名が参加した。

開会にあたり高橋理事長は「みなさんの住む地域の田んぼや畑では雫石川の水が使われています。おいしいお米を作るためには、きれいな水が必要です。そのために山を大事に育てていただきたい。今日は、怪我をしないよう慎重に、そして楽しく体験学習を行って下さい」と挨拶した。

児童たちは、盛岡広域森林組合の職員から枝打の方法について指導を受けた後、約250本の杉の枝打ちを行った。引率の先生によると、参加した児童は図工の授業でノコギリの使い方を学んでおり、一緒に作業する大人たちが驚く

ほど上手に、自分の身長以上の枝打用ノコギリを使い、みんな笑顔で声を掛け合いながら、次々と枝打ちをしていた。

枝打体験学習後、児童らは「木を切るのが楽しかった」「森がきれいになってよかったです。山がとても好きになりました」などと、感想を述べていた。



【上手に枝打をする児童】

自動草刈機実演会を開催 — 岩手県多面的機能支払推進協議会主催 —

9月4日(金)、花巻市金矢の水田で岩手県多面的機能支払推進協議会(千葉匡 会長)主催により、自動草刈機の実演会が開催された。

この実演会は、多面的機能支払に取り組む活動組織が、自動草刈機に係る操作技術や知識向上を図るため初めて開催したもので、新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、実演時間を3回に分けて実施し、活動組織や県、市町村、土地改良区の関係者約200名が参加した。

実演会に先立ち、当協議会事務局長である、本会、小野寺哲也 農村振興部長が「この実演会は、農業機械メーカーのご協力をいただき、

斜面に対応した草刈機の実演会を初めて開催するもの。様々な自動草刈機を見ることができるので、今後の活動の参考として欲しい」と挨拶した。

続いて農業機械メーカーの担当者が、実演機械(6種)ごとに走行方式やコントローラーの操作方法、作業可能な傾斜角度などを紹介した後、実際に専用のコントローラーを操作し約40度の傾斜のある法面の草刈りを実演。その後、参加者はメーカー担当者と質疑を交わし、草刈機への理解を深めた。



【斜面に対応した自動草刈機の実演状況】

水土里ネットいわて新規採用職員の紹介



森 龍太郎 (もり りゅうたろう)
農村振興部 農村整備第一課
(令和2年7月1日採用)